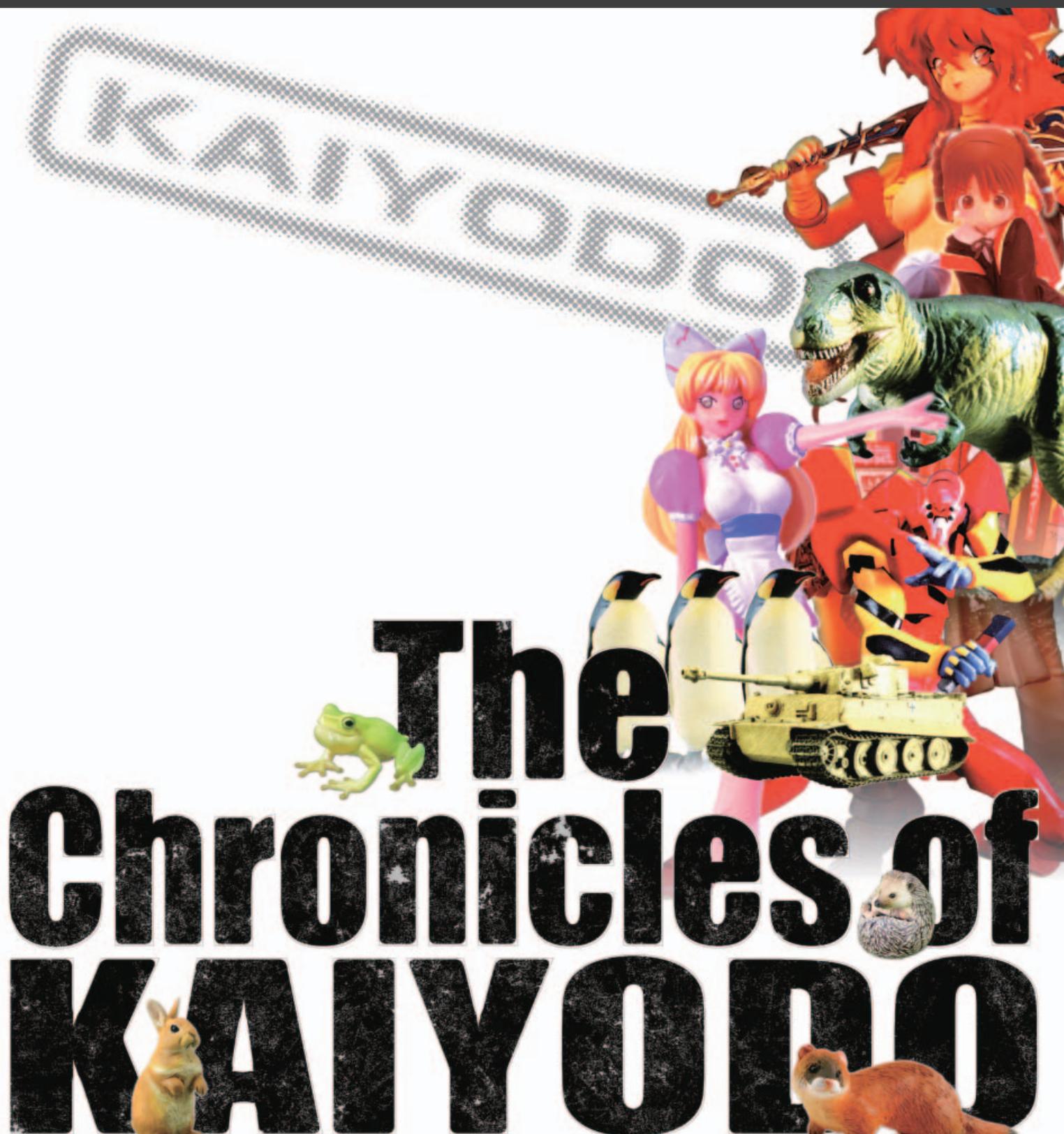


だ	美
よ	術
り	館

contents

造形集団 海洋堂の軌跡	[2~5]
平成19年度 福井県立美術館実技講座受講生募集要項	[6]
福井県立美術館 友の会 平成19年度会員募集	[7]
福井県立美術館ボランティア会員募集	[7]
お知らせ・貸館情報	[7]
近隣美術館・博物館スケジュール	[8]
日本まんなか共和国	[8]





会 期 平成19年3月2日(金)～28日(水)
休 館 日 3月12日(月)
開 館 時 間 午前9時～午後5時(入場は午後4時30分まで)
観 覧 料 一般 800円 大・高生 500円 小・中生 300円
※30名以上の団体は2割引
主 催 福井県立美術館
共 催 福井新聞社
特 別 協 力 株式会社海洋堂
コーディネート モマ・コンテンツポラリー
企 画 協 力 株式会社アートプランニングレイ

■ 関連事業

【学芸員による解説会】3月11日(日)、17(土) 14時～
※本展チケットが必要です

【同時開催】所蔵品によるテーマ展「美術でめぐる旅、人、風景」
※本展チケットにてご覧いただけます

展覧会公式サイト <http://www.kaiyodoten.com/>

The Chronicles of KAIYODO

造形集団 海洋堂の軌跡

お菓子のオマケである「食玩」という分野で絶大な人気を集める海洋堂は、1964年に模型店として創業されて以降、造形文化に対する様々な啓蒙活動を続け、1980年代からは少量生産のガレージキットメーカー(少量生産組立模型)へと転身、アニメや漫画、映画に登場する様々なキャラクターを高いクオリティで次々に立体化し、既存の流通商品では満足できない高年齢層から圧倒的な支持を集めていきます。やがて1990年代後半には、大量生産・低価格の「食玩」という分野を開拓し、一般層まで巻き込んだ一大ブームを起こすなど、現在の日本文化を考察する上で欠かすことのできない存在となった「造形集団」です。

©KAIYODO



ナースホルン大戦車自走砲・2色彩 [ワールドタンクミュージアム7]



1980年代は、映画やテレビ、漫画、アニメなど戦後になって爆発的に発展したサブカルチャーに欲望を飼育された世代が成長し、「オタク」と称される層が成立した時代。その後、彼らが文化の送り手にまわり、人々の欲望を最大限に満たすコンテンツや商品を次々に開発・提供することで、欲望と消費の構造がさらに肥大化して行くことになります。まさに現代は、それぞれの個人の精神を投影する装置として、多種多様な「モノ」があふれる時代と言えるでしょう。

本展では、海洋堂が世に送り出した様々な造形物(80~90年代のガレージキットから90年代中頃に登場した塗装済み完成品のアクションフィギュア、そして現在に至るまで爆発的な進化を続ける食玩まで)を一堂に公開することで海洋堂の歴史とその魅力について紹介するとともに、そうした現代日本文化の特質についてもあわせて検証していきます。

※食玩…「食(品)」と「玩(具)」を組み合わせた、おまけ付菓子食品全般の通称。

※ガレージキット…大手メーカーの既製品に対して、個人や中小のメーカーが、質とテーマにこだわって少量生産する模型のこと。

KAIYODO



The Chronicles of KAIYODO

■1999年9月～食玩の革命 “チョコのオマケが模型文化を変えた!”

1999年9月に発売された「チョコエッグ」以降、今やお菓子の単なる「おまけ」ではなく、それ自体が根強いファンをもつようになった、手のひらサイズながら驚異の造形を誇る2000種類以上の海洋堂製「食玩(しょくがん)」を展示。併せて、多くの人々の手作業の積み重ねで生まれる食玩の製造過程も紹介します。



チョコセンシマリス
[日本の動物10]

■60～70年代 模型店時代の海洋堂 “思い出の箱、夢の箱——プラモデル”

1964年、大阪府守口市で一坪半ほどの小さな模型店としてスタートした海洋堂は、革新的な販売促進や、プラモデルをアートとしてとらえる啓蒙活動を繰り返し、全国的に知られる存在になっていきました。60～70年代の海洋堂の活動を、当時を偲ぶ写真のほか、宮脇修一社長の膨大なコレクションのなかから厳選した約1000点のプラモデルパッケージや、代表的な商品であった完成済み帆船模型やオリジナル工具などを通して紹介します。



チョコQ 日本の動物10 集合

■80～90年代 ガレージキットメーカーとしての海洋堂

80年代初頭からガレージキット(少数生産の組立模型)の製造販売を始めた海洋堂は、80年代半ばにはプラモデルの取扱いをやめ、ガレージキットに業務を集中しました。そうした時代のフィギュア数百体を、フィギュア用語解説を交えて展示。

「ある日、本職が歯科技工士である常連モデラーが海洋堂を訪れた。入れ歯を作る技術に応用し自作のモスラの幼虫を複製したものを持ってきたのである。宮脇たちは大いに驚いた。この方法を使えば、プラモデル生産に用いられる金型による成型よりも大幅に安価、且つ緻密な模型が可能になる…。それはいつしか《ガレージキット》と呼ばれるようになった。」



—SUE—1
[恐竜博2005]

■造形の祭典——ワンフェス

毎年冬と夏に開催される海洋堂主催の「ワンダーフェスティバル」(略称「ワンフェス」「WF」)。このアマチュア愛好家とプロによるガレージキットの展示即売会は、いまや1日3万人を集めるフィギュアの巨大イベントに発展しました。その熱気あふれる様子を記録映像やレアグッズにより紹介。



三波春夫
[タイムスリップグリコ
大阪万博編]



松下館カプセル
[タイムスリップグリコ 大阪万博編]

■おたくの原点——DAICONフィルム

1981年と83年に大阪で開かれた日本SF大会[愛称「DAICON3(ダイコン・スリー)」、「DAICON4(ダイコン・フォー)」]において8mmアニメーションが上映されマニアの絶賛を浴びた。制作したのは当時大阪芸術大学に在籍した庵野秀明、赤井孝美、山賀博之といった後にプロで活躍する面々だった…。その後の日本アニメやフィギュアにおける、メカと美少女の組み合わせの原点となった映像を上映(部分)。

■造形師の仕事

「食玩」ブーム以降、その原型をつくる造形師たちも広く注目を集めるようになりました。美少女フィギュアでは人気、実力ともに他の追随を許さないボーメ、「山口式可動」と呼ばれるアクション・フィギュアによってさまざまなキメのポーズを可能にした山口勝久、広く深い動物の知識と愛情に裏打ちされ、さまざまな生き物の最も特徴的な仕草を生き生きと表現する松村しのぶをはじめ、それぞれ特徴的な表現を繰り返す海洋堂社員およびフリーの造形師12名の仕事を、大小さまざまな作品と制作風景の映像、構想段階のドローイングなどによって紹介します。

〈造形師〉ボーメ、田熊勝夫、寺岡邦明、木下隆志、山口勝久、谷明、松村しのぶ、榎木ともひで、大嶋優木、竹谷隆之、香川雅彦、村田明玄



—SUE—2 [恐竜博2005]

■21世紀の海洋堂

次々と新しい企画の斬新な食玩やフィギュアを生みだし続ける海洋堂の最新作をいち早く紹介。

左より: SU-122突撃砲・2色迷彩/Ⅲ号戦車J型後期型冬季迷彩/T-34-76戦車1942・単色迷彩/バンダー戦車D型・単色迷彩/
ティガーI型初期型・3色迷彩 [ワールドタンクミュージアム7]



—SUE— 集合写真



ワールドタンクミュージアム7集合写真



タイムスリップグリコ 大阪万博編



「創るモノは夜空にきらめく星の数ほど無限にある」



タイワンザル
【日本の動物10】

「創るたのしみをすべての人に」というキャッチフレーズを商いの基本に揚げ、日本一のホビーショップを目指し、昭和39年、一坪半のホビーショップを大阪府守口市に開業いたしました。昭和57年、既存のメーカーによる商品の販売に限界を感じ、「焼きたてのパンを売るパン屋さんのように、自分たちで創ったモノを顧客の手にお渡しできないだろうか」という発想のもとにオリジナル商品の企画・開発・製造・販売を始めました。

「新しいモノ、楽しいモノ、珍しいモノ、面白いモノ、どこにもないモノ、そしてより優れたモノづくり」を開発の基本に、これまで2,000種を越すオリジナル商品を世に送り出してきました。また、AQUALANDシリーズ、DINOLANDシリーズから始めて試行錯誤を重ねてきた自然史モデルもいわゆる「食玩」の形を採ることで市場に大いに受け入れられ、今では海洋堂の大黒柱にまで成長しました。カプセルトイ等キャラクター商品の開発も業界では群を抜いたクオリティで高い評価と販売実績を誇っています。「より優れたモノづくりを志向する限り、容易な妥協は許されない。冒険する、つまりチャレンジ精神がなければ新しいモノの創造はできない。」を基本に、日夜一所懸命精進しております。

これからも将来に向け、全スタッフの感性と技術を更に磨き上げ、新たなキャッチフレーズ「創るモノは夜空にきらめく星の数ほど無限にある」を掲げ、世界に通用するモノづくりを目標に精進していきたいと考えております。

株式会社 海洋堂
代表取締役社長 宮脇 修一

※海洋堂公式ホームページ: <http://www.kaiyodo.co.jp/index.html> より転載



太陽の塔
【タイムスリップグリコ
大阪万博編】

平成19年度 福井県立美術館実技講座受講生募集要項

講座科目	基礎講座			専門講座		
	日本画講座	洋画講座	彫刻講座	日本画講座	洋画講座	彫刻講座
指導講師 (講座定員)	塩出 周子 (20人)	坂井 敏之 (30人)	古市 貴代 (10人)	湯浅 満 塩出 周子 (20人)	小原 勉 荒木 道之 (30人)	池田 雅彦 (10人)
講座内容	植物写生	静物	頭像 [モデルをみながら粘土で制作後、石膏取り]	風景・静物	風景・人物	胸像粘土で制作後、石膏取り・頭像を主とした木彫
講座会場	県立美術館 実技研修棟			県立美術館 実技研修棟		
講座期間	平成19年4月7日～6月16日(土曜日)			平成19年7月7日～平成20年1月26日(土曜日)		
講座時間	13時30分～16時30分 延10回			13時30分～16時30分 延25回		
対象者	作品制作の初歩的な基礎を学ぼうとする者			作品制作の経験があり、さらに専門的に学ぼうとする者、基礎講座を受講経験した者		
受講料	7,500円			19,000円		
材料費	受講生実費負担			受講生実費負担		
講座日	平成19年 4月 7日・14日・21日・28日 5月 12日・19日・26日 6月 2日・9日・16日			平成19年 7月 7日・14日・21日・28日 8月 4日・11日 9月 1日・8日・15日・22日・29日 10月 6日・13日・20日・27日 11月 10日・17日・24日 12月 1日・8日・15日・22日 平成20年 1月 12日・19日・26日		
募集期間	平成19年 3月1日(水)～3月20日(火)			平成19年 5月1日(火)～5月31日(木)		

【応募方法】

- 必ず**官製はがき(往復はがき)**を使用し、右記の所定事項を記入の上、投函してください。
- 記入は、楷書で明確にお願いします。
- 電話による応募の受付はいたしません。

【応募条件】

- 16歳以上で県内に居住する者、県内に在学する者および勤務する者。
- 受講歴1回以下の者。
(基礎、専門ともそれぞれ講座の受講は2回までとします。)

【応募者の決定】

- 応募者が定員を超えた場合は、抽選により決定します。
(新規応募者優先／結果は、締め切り後10日以内に連絡します。)

■ 問い合わせ先(あて先)

福井県立美術館 実技講座係
〒910-0017 福井市文京3丁目16-1
TEL.0776(25)0452



■ ハガキに記入する事項

- ① 講座種別と科目(例: 専門講座、日本画)
- ② 氏名(ふりがな)、性別
- ③ 年齢
- ④ 住所、電話番号(連絡先)
- ⑤ 専門講座に限り、経験の程度を簡単に記入してください。
(例: ○年度基礎講座受講、○年、県・市美展入選、入賞)

- 講師急病等のでやむを得ない都合により、日程が変更または代替講師になる場合があります。
- 用具・材料は受講生実費負担とし、各自で用意していただきます。
- 作品や道具類はその都度お持ち帰りください。
- 研修棟を各グループで利用していただくこともできます。
(有料: 詳細は県立美術館までお問い合わせください。)

【作品展日程】

平成20年2月10日(日)～2月17日(日)
搬入: 平成20年2月 9日(土)
搬出: 平成20年2月17日(日) 16:00～17:00

この講座は福井ライフ・アカデミー事業に提携しています。

平成19年度 会員募集



「友の会」とは…

福井県立美術館友の会とは、美術に親しみ、美術鑑賞会などの催しものを通して親睦を深めようとする人たちの集まりです。

【活動内容】

1. 友の会ニュース・美術館だよりの発行、配布
2. 県外美術館見学会の実施（年2回）
3. 実技講座・美術講座の開催
4. 企画展鑑賞会の開催

【特典】

1. 常設展はいつでも無料でご覧いただけます。
2. 企画展無料入場券の配布があります。
3. 県立美術館主催、共催の展覧会が2割引でご覧いただけます。
4. ミュージアムグッズが2割引でお求めいただけます。

【会費】（年間）

〔一般会員〕	2,000円
〔家族会員〕	4,000円
〔特別会員〕	10,000円

【会員期間】

4月1日から翌年3月31日までの1年間

申込み方法

郵便振替、または申込み用紙に会費を添えて、美術館窓口で直接お申込み下さい。

【郵便振替でお申込みの場合】

振替用紙の通信欄に、

◎住所◎氏名◎生年月日◎電話番号◎職業
をご記入のうえ、次の口座に会費をお振込みください。
《口座番号 00700-8-41543》

【口座振替の場合】

「口座振替依頼書」を提出していただきます。

詳しくは、県立美術館友の会事務局までお問い合わせください。

【お問い合わせ】 福井県立美術館 友の会事務局 TEL.0776(25)0452

福井県立美術館 ボランティア会員募集

～一緒に美術館のお仕事、手伝ってみませんか？～

福井県立美術館ボランティアの会では、平成19年度の新規会員を募集しています。ご興味のある方はお気軽にお問い合わせ下さい。

■入会資格

1. 美術に興味のある高校生以上の方
2. 月2回以上活動可能な方

■活動内容

1. 来館者の方向けのインフォメーションサービス
2. テーマ展・展覧会場での監視や作品解説
3. 図書・美術関係資料などの整理

※ なお、入会にあたっては事前に、育成講座と体験学習を受けていただきます。



【お問い合わせ】 福井県立美術館 ボランティアの会事務局 TEL.0776(25)0452

お知らせ

◎2月末～3月の休館日について

展示替え、館内メンテナンス等のため、
2月26日(月)、27日(火)、
3月12日(月)、29日(木)、30日(金)、31日(土)は、
休館とさせていただきますのでご了承ください。

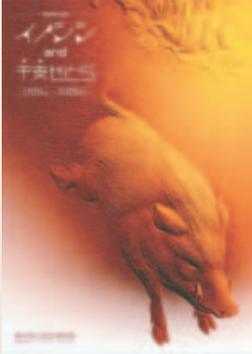
貸館情報 [2/20～3/31]

- 2/20～2/25 ● '07毎日現代書北陸代表作家展
- 2/23～2/25 ● 福井大学書道部卒業制作展
- 3/7～3/11 ● 第5回 グループ耀展
- 3/13～3/18 ● 第8回 絵画グループ「樹」作品展
- 3/21～3/25 ● 杉本憂美子パッチワーク教室展

福井県立歴史博物館

福井市大宮2-19-15 TEL.0776-22-4675
休館日:第2・4水曜日

新春特別企画 **イノシシ and 干支(えと)せとら**
1月3日(水)~2月25日(日)



一般・大学生 100円/
高校生以下・70歳以上 無料
※30名以上の団体は2割引

2007年の干支「亥」にちなんでイノシシをモチーフにした工芸品や絵画などを展示します。
勇ましくそして愛らしいイノシシの造形品の数々から人とイノシシの長い関わりを歴史をたどります。また十二支にまつわる歴史や文化もあわせて紹介します。

- 展 示
- 【イノシシの郷土玩具】
イノシシをモチーフにした郷土玩具の展示。
- 【イノシシの工芸品】
イノシシをモチーフにした工芸品の展示。
- 【縄文時代のイノシシ】
鳥浜貝塚(若狭町)で出土したイノシシの頭骨や牙の装身具などの展示
- 【干支の世界】
干支にまつわる資料の展示。
- ギャラリートーク(展示説明会)
学芸員が、展示内容をわかりやすく解説します。
1月14日(日) / 2月18日(日)
14:00~

福井市立郷土歴史博物館

福井市宝永3-12-1 TEL.0776-21-0489
休館日:4月16日(月)

松平家資料展示室 **「春嶽公記念文庫の和歌短冊」**
2月1日(木)~3月21日(水)

松平春嶽や春嶽公記念文庫に献上または寄贈された著名士たちの和歌短冊、春嶽自身の詠草や親交によって得られた和歌短冊などを紹介します。

個人 210円/団体 150円 ※ 団体料金は20名以上で観覧される場合に限りです。



平成19年春季特別展
出光美術館コレクション
岩佐又兵衛と俵屋宗達

前期 3月24日(土)~4月15日(日) 後期 4月17日(火)~5月6日(日)

出光美術館は優れた美術品の蒐集で国内外の高い評価を得ているわが国屈指の美術館です。この展覧会は出光美術館のコレクションから、岩佐又兵衛と俵屋宗達の作品を中心に、近世初期の美術をご紹介します。



左:岩佐又兵衛作
「在原兼平図」重要美術品
右:俵屋宗達作
「西行物語絵巻(部分)」重要文化財

大人 600円/高校・大学生 500円 通期券:大人 1,000円/高校・大学生 800円
※通期券は、前後期間1回ずつご覧いただけます。

広
報
板

日本まんなか共和国

日本の東西文化の境界にある四県(岐阜、三重、滋賀、福井)が連携し、より効果的な文化活動を行うため、先進的な「日本まんなか共和国」の創造を目指しています。

滋賀県立近代美術館

大津市瀬田南大菅町1740-1 TEL:077-543-2111

志村ふくみの
紬織りを楽しむ

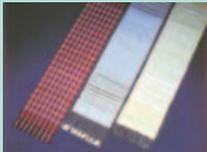
1月13日(土)~4月8日(日)

大正13年に現在の近江八幡市に生まれた志村ふくみさんは、紬織りと染織の優れた技術によって知られ、平成2年に紬織の重要無形文化財(人間国宝)の認定を受けました。志村さんは80歳を超えられた現在でも創作活動を楽しみながら新たな世界を切り開いておられます。

本展は、志村ふくみさんの豊かな作品世界を、当館の所蔵品によりあますところなく紹介する貴重な機会となります。



紅花生綿



左:湖上夕照/右:シヨール

一般 900(700)円/高生 650(500)円/小中生 450(350)円
※()内は前売および20名以上の団体料金

岐阜県美術館

岐阜市宇佐4-1-22 TEL:058-271-1313

第4回 円空大賞展

3月2日(金)~3月25日(日)

岐阜県ゆかりの江戸時代の修行僧「円空」。その精神を彷彿とさせる芸術家を顕彰することにより、岐阜の文化を振興し広く発信してゆこうと、岐阜県では「円空大賞」が制定されました。この展覧会では、第4回受賞者の優れた成果を一堂に展示します。



《円空大賞》
新宮 晋「宇宙の翼」1999年



《円空賞》
アクセル・カセル [TIMELESS] 2006年



《円空賞》
伊藤 隆二「ヒロシマー土」2002年



《円空賞》
秋山 隆「境界・系II」1998年



《円空賞》
野田 雄一「天蓋」2005年

一般 800円(700円)/大学生 600円(500円)/小・中・高生無料
※()内は、20名以上の団体料金。

三重県立美術館

津市大谷町11 TEL:059-227-2100

三重の三人
— 浅野弥衛・小林研三・伊藤利彦
— 線と鳥と飛行機と —

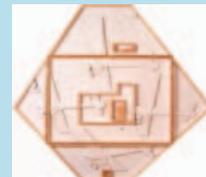
3月3日(土)~4月8日(日)

浅野弥衛(1914-1996)、小林研三(1924-2001)、伊藤利彦(1928-2006)の三人は、三重に生まれ、生涯この地を活動の拠点とし、親しく親交を結んでいた作家たちです。

ほとんどが白か黒のみの地をひっかいて得られた線が自在に変化する浅野、明るく穏やかな色彩が童話的なイメージを紡ぐ小林、暗鬱な物質性の強調、観念的な制作の問い直しを経て、箱の中に畳みこまれた晴朗な白のレリーフに達した伊藤と、各々の作品世界をご紹介します。



浅野弥衛「作品」1964(昭和39)



左:伊藤利彦「路の中の空 No.7」
1993(平成5)年
右:小林研三「鳥」1966(昭和41)年



一般 500円(400円)/高・大生 400円(300円)/小・中生無料
※()内は、20名以上の団体料金